

# 『2020 年に向けて～

# あなたは歴史の目撃者となる！！』

## 【講演へのメッセージ】 澤野 大樹

“彼ら”にとって「2020 年」という年は「ひとつの終着駅」として規定されています。これまでの世界の歴史をも含めて、彼らは 2020 年に向けてあらゆるものをそこに収斂させていきます。

ひとつは、古代イスラエル王国が南北に分裂させられた因縁の解消。そこには強烈な選民思想があるのはもちろんのこと、そこには巨大な劣等感に、憧憬、いや羨望が同居し続けてきました。

そしてひとつは、出雲の国譲りで興奮のあまり、手法と道筋を誤ったことに対する悔恨の念の解消。そして、徐福らによって、弥生の支配兵器である稲作と農業がこの列島に持ち込まれたこと。

そしてさらに、乙巳の変で暴力によるクーデターの成功体験をしてしまったこと。もうひとつは、白村江の戦いで賊軍となった記憶を忘れられず、その後、この列島で権力闘争に明け暮れたこと。

さらにひとつは、大和朝廷を組織し、東北縄文日高見国を巻き込み、まったく必要の無いジェノサイドを遂行してしまっただけの悔悟。ついでに、文禄・慶長の役の時に秀吉に連れてこられた捕虜たちが、そんな“彼ら”と合流し、長大な“計画”を立ててしまったこと。

そしてまだひとつ、“西軍”として権力奪取に奔走したが完膚なきまでに叩きのめされ敗走した恨み。まだあるもうひとつ、260 年間その恨みを隠し、仮面を被り続けながら時が来るのをひたすら待ち、戊辰戦争によって積年の悲願だった支配者の地位を「虚構」に立脚し、奪い取ったことに対する後ろめたさ。

まだまだもうひとつ、明治維新以降、77 年間に亘って戦争に次ぐ戦争に明け暮れ、まさに“彼ら”の夢の実現にまであと一歩というところまで来たが、連合国、および世界 50 数カ国に宣戦布告され、その計画がすべて破壊され、“彼ら”には麻酔銃が撃ち込まれた。“彼ら”は、この屈辱を今でも決して忘れることなく逆恨みし続けている。そして何より、何も知らない、何の罪も無い実直な国民を犠牲にしてしまったこと。さらに、それを隠蔽するために某神社で英霊の封印を儀式していること。この巨大な秘密を守り続けることだけに費やされた 75 年間だが、そんな虚構を今後も未来永劫に亘って保持し続けなければならないというストレス。

——そして、たったひとり残された悲願の“プリンス”は、いよいよ 2020 年をもって、それらすべてを「統合」させようとしています。ひとつも解決されていないそれらのことを、何も解決させる気もないまま、力尽くで、すべてを捻じ伏せ、纏め上げようとするでしょう。しかし、それらすべては「虚構」「隠蔽」「改竄」「破棄」によって積み重ねられてきた、「虚構世界」なのですから、そもそも纏め上げられるようなものではないのです。それを薄々知りながらも諦めきれない人たちだからこそ、彼らは関が原以来 260 年間、いや、紀元前 922 年の古代ヘブライ王国の分裂以来 2942 年に亘って、ただの一度ですら解決することも、纏め上げることもできなかったのでしょう。

——それはなぜでしょうか？“彼ら”は無自覚無反省でありながら、その上にさらに、虚構、捏造、隠蔽を主力として人々を支配しようとしてきたからでしょう。つまり、彼らには謙虚さがまったく足りなかったということでしょう。だからゆえ、ヤハウエに逆らい「新しい神」の創造に日夜励むことができたわけです。“彼ら”には、自らの無知を知るといって「無知の知」がなかった。世界で最も優秀だといわれる彼らは、ソクラテスに言わせれば最大の愚者そのものであった。2020 年をひとつの区切りとして、では世界をもう一度纏め上げるのであればそれは誰の手によって行われるのでしょうか？

——そう、“彼ら”の真逆の立場において封印され存在を消された者たちによってです。“彼ら”には、世界を再び纏め上げようなどという権利も資格もないのです。さあ、これを理会して初めて「スピリチュアル」のスタートラインに立つことができるわけです。

——なぜですか？“彼ら”はこれまで数千年に亘って人々の心を支配し、精神を支配し、信仰を支配し、多次元世界を誤解させてきました。つまり、“彼ら”は私たち人類のスピリチュアル領域を弄んできたのです。つまり、既存のスピリチュアルはそのほとんどが“彼ら”の手によるものだったのです。では本物のスピリチュアルなど存在しないのでしょうか？本物のスピリチュアルは厳然と存在しているが深く封印されてしまっているのです。表に蔓延ってきた支配のためのスピリチュアルをアラハバキ、正真正銘の本物を浮上させることがこれから起きることです。これがまさに「Redeemer」の本質であるわけなのです。

澤野大樹（さわの・たいじゅ）さんのご紹介 1971年東京生まれ INTUITION  
<http://www.intuition.jp/>  
 日本大学芸術学部映画学科卒業。たま出版、たまメンタルビジネス研究所にて、日本のスピリチュアル界の草分け的存在であった瓜谷侑広氏の下で研鑽を積む。独立し、1997年より独自の哲学的視点を綴った『情報誌 INTUITION』の発行が始まる。以来、17年間経った今でもその執筆は続いている。この『情報誌INTUITION』の執筆が、私の活動の基礎中の基礎であり、ここから様々な企画などに派生していくことになる。たま出版時代から、成功法則、思考現実化法、サブリミナル、マインドコントロール、玄米菜食、魔術、超能力開発、ヒーリング、占い、瞑想、自己催眠術、パワースポット、秘密結社、陰謀論など、ありとあらゆることを体験し、そのことを踏まえた上で書かれる『情報誌INTUITION』は、客観的で多次元的という非常に稀有な形態を持っている。執筆している本人に、「これから何を書くのか？」ということに対する明確な意識は存在せず、執筆しながら本人が一番驚き、感動し、喜ぶというこれまた稀有な創作過程となっている。それゆえに、完成された情報誌は、もはや「この世のものではない」と言われている。通常想定される「情報誌」というものとはまったく違い、筆者は、この情報誌の執筆を、ひとつのストーリーを紡ぎ描く手段であると捉えている節がある。いきなり出会っての初見では何が書いてあるのかわからない。しかし、じっくり何度も読んでいくうちに、後になってからジワジワと効いてくるという、不思議な感覚を呼び覚ます珍しい情報誌となっている。そんな筆者だが、たまに勉強会や講演会なども行っている。講演は、すべての文言が一字一句逃さずに、講演直前に活字化され、講演原稿として用意される。講演と同時に100%完璧な活字版も完成しているところが大きな特徴である。これまでの講演会は、すべて100%活字で保存されている。また、このインターネット全盛期の現代において、『情報誌INTUITION』は、A4用紙による紙媒体による発行だ。なぜならば、現代においても、国家間の取り決めや条約の調印式は必ず紙の書面に万年筆であるように、歴史に残るものを創造する場合は、紙に記す必要があると考えているからだ。紙ならば1000年経っても残るからだ。『情報誌 INTUITION』をぜひご購読ください。著書「瀬織津姫システムと知的存在MANAKAが近現代史と多次元世界のタブーを明かす」文芸社

- ・日 時： 2019年12月15日(日) 14時半～19時頃（開場 14時）
- ・会 場： あわの里 天命舎 仙台市青葉区国分町 3-9-32 仙台 ATOWAビル 5階 022-399-7674
- ・参加費： 5000円（仙台テンメイ会員以外&当日参加 5500円）参加費は当日支払下さい。
- ・定 員： 20名
- ・懇親会： 講演会終了後、澤野さんを囲んで懇親会を開催します。参加希望の方は申込下さい。
- ・申込み： 参加申込書に記入し、FAX、電話、Emailで申込み下さい。
- ・問合せ： 仙台天命塾 大久保 TEL/FAX 022-279-1024 090-8786-7300  
 E-mail [atowa999@gmail.com](mailto:atowa999@gmail.com) 仙台天命塾 HP <http://genkiup.net/>

仙台天命塾 第347回オープンセミナー 参加申込書 講師 澤野 大樹さん  
 FAX 022-279-1024 2019年12月15日(日)

氏名		会員	TEL	
E-mail			FAX	
住所	〒			懇親会参加